

令和2年6月30日

学校法人三幸学園
名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校
校長 紅谷 尚幹 殿

学校関係者評価委員会
委員長 浅野 栄介

学校関係者評価委員会報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 酒井 光里 (株式会社 nano)
- ② 浅野 栄介 (有限会社太閤オフィスサービス 代表取締役社長)
- ③ 阿部 雄一郎 (飛鳥未来高等学校 名古屋キャンパス 教務主任)
- ④ 玉田 鷹士 (第15期卒業生 ジョイ・ムーブメント代表)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和2年6月30日 (会場 名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校
多目的教室+WEB)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2019年度 学校法人 三幸学園 名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小久保 和紀

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 浅野 栄介

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

学園のミッション・ビジョン実現とスポーツ分野のビジョンや教育理念、そして人材育成像の実現に向け取り組んだ。

○継続する力を養う為の基本の徹底

- ・報連相の徹底、具体的には欠席連絡等を含む、事前・事後連絡の徹底。
- ・学ぶ環境を自ら整える為に、清掃・整理の徹底。
- ・報告書類、提出物等の報告期限内の提出の徹底。

○学んだ成果としての資格取得率の向上

- ・全ての資格とはならなかったが、多くの生徒が必須受験をする資格・検定において合格率を向上させる事が出来た。

○現場経験・実践経験を得るための機会提供を強化

- ・ラグビーワールドカップでのボランティア活動をはじめ、団体・地域・協会主催の大会・試合において多くの現場経験の出来る機会の提供をする事が出来た。それにより、業界との連携強化にも繋がった。

※普段の学校生活の過ごし方、自己実現のため、学ぶ環境の風土・雰囲気作りに関してはまだまだ改善の余地がある。

※コロナ禍におけるメディア授業の運用については、今後も継続的に改善に向けて取り組む必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員：たくさんの学生がボランティア活動を様々な場所で行っているように感じた。先生方が関係各所に繋がりをより深めてもらうことで、実際の現場にて活動している学生が多かった。実際に学生と関わっていた人から見たときに名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校のことを周知している人、していない人の中で学生と関わることで学校のことを知っていただき、良い印象を持っていただけたことで、他業種からもボランティアへの参加の声を頂き、次に繋がることもあったように感じた。卒業生として学生が現場で

実際に働いていることを知らないので、卒業生へも声がかかり一緒にサポートに入ることによって業界を盛り上げることができるのではないかと考えている。

阿部委員：ラグビーワールドカップのボランティアとしての参加は世界大会の運営に関わることになるので学生にとってとても良い経験になったと思う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・入学前の保護者説明会にて学校の理念・目的・人材育成像などは周知しているが、それ以降は発送物等での発信となる為、浸透にまでは至らない。キャリアの浅い担任も多いため、生徒及び保護者に周知・浸透させていくためには、教育理念・人材育成像等を職員が理解し、伝えていく必要がある。
- ・変化の激しい業界の為、常に最新のトレンド、業界のニーズを捉えておく必要がある。ただ、変化させるもの変化させないもの見極めをすることが必要と感じる。
- ・保護者連絡は問題があった際のみならず、生徒に関する良い報告（内定をいただいた、授業での模範となる取り組みなど）を習慣化させていく事で、担任を通して、教育理念を感じていただけるのではないかと。

②今後の改善方策

- ・オンライン会議などを実践する過程で、動画を使ったコンテンツを作成し、メッセージを伝える事が有効であると実証出来たため、保護者に向けたメッセージ動画を作成し配信する。
- ・対保護者に向けての施策は、今後もできるようにしたい。特に、今年度はコロナウイルスの影響で保護者会等ができていないため、アプローチ方法は工夫する必要がある。

③ 特記事項

- ・保護者説明会の実施、年3回の郵送物の発送、担任からの都度保護者電話連絡を計っている。
- ・学校の理念・目的・育成人材像は、入学前のオリエンテーションや保護者説明会にて新入生及び保護者に提示している。
- ・入学後に行なう全生徒対象の研修プログラムでも、学校の理念・目的・育成人材像は周知し、そこに向かうべく、個々の目標設定と管理を徹底している。
- ・業界理解や職業イメージ醸成の為、企業様の講演や入学後にフィットネスクラブ体験会を実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員：コロナウイルスの影響でフィットネス業界はたたかれているが、三幸学園として来年度以降の新しいニーズはどう考えているかを教えて頂きたい。オンラインでのサービス等とフィットネス業界・スポーツ業界が発展していく中でどう介入していくか、知識がない人への架け橋になるか、スポーツジムの業界では退会率が高くなる中で連携しているアクトス様・コパン様との復旧活動を検討しているのか。

小久保副校長：コロナ禍において業界に向けては学校の場合、業界の動向に合わせていくことが基本のスタンスである。我々が見ている先というのは学生の就職先を確保していくことが大きな課題として考えている。今までの主な就職先としていたフィットネスクラブ、スタジオ、スポーツジム、リラクゼーションの分野は採用数が減ってしまう。企業様も今いる社員を守っていくことが優先順位が高いので、学校として今後は就職先として今まで

の業種以外のスポーツ関連職種を広げていく。例えば健康機器メーカーやオンライン専門の企業、サプリメント関連等、アプローチの対象を広げている状況である。

地域・業界への貢献は今まで通りしていきたい。スポーツ業界においてもある程度の立ち位置でさせて頂いている以降はその貢献意識が高まっている。業界団体ともにコロナウィルスの感染拡大防止の取り組みを他学校よりも意識して、授業の再開のプランを立てている。スポーツ施設は再開まで時間がかかったこともあり、学校もスポーツ業界の一つの団体として含まれているという意識で感染者を出さないよう全国統一のもと対策をしている。復旧活動等は受け入れ側の体制がまだ整えられていない、学生を受け入れる状態まで至っていない企業がまだまだ多いので、ボランティア等が必要とする場合には声をかけて頂けるようアプローチしている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・様々なシステムが導入され、業務も効率化が進められているが活用しきれていない。
システムについては導入時には発信があるものの、その後は各自の裁量に任せられている為、浸透とまでは至っていない。
- ・昨年度末から発生したコロナの影響で、情報システムの活用・メディアの活用は一気に広まった。ただ、導入することを優先に稼働を行ったため、整備すべき点が多々ある状態となっている。

② 今後の改善方策

- ・強制的に新たなシステムを利用する仕組みを作る。
- ・情報管理システムでの発信は継続し、「閲覧数」を増やす取り組みを行う必要がある。

③ 特記事項

- ・SANKO GATE による情報の一本化。
- ・情報伝達の頻度を上げ、活用する機会を増やす取り組みを実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員：オンデマンド授業と対面で行っている授業とで連携が取れるといいと感じる。座学授業（オンデマンド授業）と実技（対面授業）が連携をとることで学生の理解度を把握でき、アプローチの仕方も変えることが出来るのでより授業を行いやすくなると考えている。

小久保副校長：今までは教科間連携を考え、コミュニケーションをとりながら授業を進めていたところもあったと思うが、現状では出来ていないこともあるので改善の余地があると考えます。

阿部委員：名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校の職員はオンデマンドの課題の出し方・回答等で使いこなしている様子が伺える。また生徒がそこに質問・応答している。高等学校でも教員側がオンデマンドを上手く使いこなしていくとより良いものになると感じている。

飛鳥未来高等学校での生徒の登録者数は9割程度登録しているが、実際に使用しているのは1割程度である。専門学校のほうが導入しているウエイトが多いと思うが、学生の使用頻度や様子を教えてください。

坪田教員：昨年度より使用頻度は高くなっている。コロナウィルスの影響もありオンラインでの授業も行っているため稼働率は非常に高い。しかしインフォメーションは多量に配信しているため先生、学生ともに情報を視聴できている・出来ていないと差があることが現状の課題である。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・キャリアの浅い担任が多く、統一の教育に関するマニュアルが複数存在はしているが、各担任による個人差が非常に多いことが課題である。
- ・定期的に職員会議にて教育・指導研修を継続的に行っている。
- ・昨年度同様、キャリアが浅い・年齢の若い担任が非常に多く、各担任の能力に依存している点は課題である。
- ・昨年度の各アンケート(授業アンケート、クラスアンケート、担任アンケート)の評価が全国的に低かった、昨年度より上げられるような授業内容、クラス運営、担任としての対応など改善できるように意識していくことが課題である。

② 今後の改善方策

- ・統一した教育の質を担保できるよう、定期的な研修を強化していく。また、本部より提示される様々なデータを活用し、学校内・個人々人における課題を各個人レベルで把握できるよう発信をしていく。

③ 特記事項

- ・人材育成として OJT 研修を毎週定期的実施している。
- ・今年度からは、副担任制度を設け、定期的に面談を行う取り組みを行っている。

- ・職員会議内で、毎月の各数字(月別退学率、皆精勤率等)の振り返りを実施している。
- ・産学連携によるインターンシップ実施状況の確認を毎週実施。普段の授業・生活との連動を図る。

④ 学校関係者評価委員会コメント

阿部委員：カリキュラムは特に問題ないと思うので、オンラインになったため先生同士の連携・コミュニケーションが大切になってくる。若い担任はそれが苦手になってくるとクラス運営が上手くいかないこともある。クラス会議等、運営するにあたり連携をとるためにやっていることがあれば教えて頂きたい。

小久保副校長：オンラインの授業に向けて学科単位で関連科目の連携を確認するための時間を設けた。例年に比べて状況・情報を共有できるコミュニケーションの場を設定する必要性を感じているので、第二回全体会議も学科会を中心とし、コミュニケーションを図れるようにしていきたいと検討している。

浅野委員：どの企業も新しい職員に向けた教育は悩める課題だと考えている。一年ほど前から指導職、先輩の実務の時間を減らし、新しい職員、能力が基準に達していない人へ指導する時間にあて現場レベルを上げるようにしている。またコミュニケーションをとるよう心掛けている

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・退学率低減に向け、早期のタイミングで面談の実施、遅刻・欠席者へのこまめな連絡、長期休暇前の意識づけなど様々な対策を行っていたが、多様な考え方を持つ学生が多く、より一人一人にあった個別対応がまだまだ足りないという点が課題である。
- ・退学率も一昨年前よりも上がってしまった。自身の目標を明確にできていない学生も多々おり、クラス内で1名退学者がでると、他の迷っていた学生も一気に退学を検討し始める傾向がある。

② 今後の改善方策

- ・本部から発信ある退学低減に向けた施策等を会議の場で討議する等の対策を引き続き実施。
- ・就職支援授業で就職活動の仕方はもちろん、業界で働くイメージを十分沸かせる必要があり、その為に業界勉強会や企業訪問をすることで、教員側の学びの場を多くする。その上で、生徒には十分な情報を提供できるよう努めていく。企業訪問にて学校教育にご理解を頂き、関係性を築き、卒業生情報はもちろん早期離職とならぬよう連携を強化していく。
- ・卒業生支援(勉強会や講習会・交流会)の場を提供し、教職員の学びの場としても設定していく。

③ 特記事項

- ・資格取得率アップに向け、強化合宿の実施や集中講義を定期的実施するなどの取組みは行っている。
- ・退学率低減に向けて、入学前と入学後のギャップを大きく生じさせないため、入学前にオリエンテーションを実施し、入学生と保護者同伴で一斉に集め、説明会も実施している。
- ・卒業生支援。人材バンクの設置。全国姉妹校との情報共有と合格率向上のために全国模試の実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員：フィットネス業界がコロナウィルスの影響でネガティブな印象を持たれているが、その中でも求められている業界とも感じている。コロナ禍においてもやっていること・出来ることを学生にも伝えて頂ければ活動できる場所があることを理解し、安心できるのではと考える。例えばzoom等オンライン越しでの集団指導の提供をしている企業も多いので、対面でなくても指導の提供やトレーナーの働き方を紹介することが出来る。そういったオンラインなどで行うイベントはあるのか。

小久保副校長：学生に向けて業界紹介の一環等で興味関心のある学生に対して、今実際に行われているオンラインでの指導提供を体感してもらえよう検討していきたい。今まで行っていたテニスクラブの体験も延期もしくは中止となっているので、その代替えとしてオンラインでの体験レッスンを学生自らがうけてもらい、学生自身が実際に働く場所があることを伝えていきたい。

玉田委員：他業種の方たちで企業サポートや支援分野でいろんな若手の人がプレゼンテーションの場を作り、優勝者へ活用資金を任すことがある。三幸学園でも例えば事業計画書を作成しプレゼンテーションをしてもらい1名を決め、支援するというのは面白いと考える。

小久保副校長：コロナ禍においてスポーツ業界と飲食業界を中心に支援の希望が上がっているので、今後も独立支援が広がっていくと思う。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・卒業生へのキャリア支援体制についてはまだまだ課題が残る、SNS・WEBを積極的に活用していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・在籍時より卒業生サイトがあることの告知を強化し、有効活用していく。
- ・卒業生 Facebook・同窓会Linkの活用を積極的に行っていく。

③ 特記事項

- ・エリア担当と担任とで、就職サポートを実施している。
- ・カウンセラーの設置、学生の希望により定期的に話をすることができる環境がある。
- ・学生の生活環境への支援としては、提携している寮等の案内がある。
- ・高校との連携では、職業紹介のガイダンス等で協力させていただいている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員:卒業生の個人事業主への支援として 10 万円の給付をしているのは有難い。情報を取りに行っている卒業生は多いと感じた。実際、給付金を受け取っているがクーポンを発行していても、買う手がない、受取り方法が分からない等情報が固まっていない中でも迅速に対応し、支援してもらえたことが嬉しかった。三幸リンクは月 1 回程度しか見ておらず、情報を取りに行く、上がっている認識があまり持っていない。見ているものとして Facebook よりもインスタのストーリーのほうの情報を見ている。通知がくるような形での情報提供があるとより情報が収集・拡散できると思う。また三幸リンク卒業支援が一向に変化がないのは何か理由があるのか。

小久保副校長:卒業支援においてもともと美容や飲食が発端で支援が始まっており、スポーツ業界では独立支援等の申請が通っていないのが現状である。今回の卒業生支援に関しては、見切り発車で始まり、先に卒業生へ給付出来る状態を作ったので、クーポンの活用はまだ先だと見越している。今の方向性としてメンバーや職員ではなく、今まで関わりがなかった人へ提供して、新たにスポーツの価値を伝える、卒業生の収入に繋

がるような企業と繋がればと調整を進めている。

玉田委員：卒業生と会うと今後について悩んでいる人もいますので、学校が相談先になっていただきたく、卒業生をインスタにあげるなど来校しやすい発信をしてもらえると有難い。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・災害を想定した避難訓練の内容や頻度。ならびに、安全管理の観点や災害の意識強化が課題である。
- ・実習先の確保は問題なくできているが、実習期間でリタイアしてしまう生徒がいることや、長期の実習になった際、モチベーションを保つことができずあきらめてしまう生徒が若干名いることが課題である。
- ・また、在籍者数が年々増加しているため、今後は学習環境を担保できるよう施設を準備することも課題である。

② 今後の改善方策

- ・職員に対する避難訓練を実施し、安全面への意識を高めていく。また万が一の事態に備え避難経路の確保については常日頃から点検を行う。また、ホームルームにて生徒へ避難訓練の意義や必要性を伝達する。
- ・実習については、開始前にオリエンテーションを行い、様々な事例を事前に伝え意識付けを強化している。

③ 特記事項

- ・防災・安全管理において、非常食・飲料水などの備蓄品や職員室内防災用品を設置している。
- ・CPR研修の実施。防災マニュアルの定期的確認と周知。Wi-Fi環境の整備。
- ・一斉情報伝達の為のデジタルサイネージの活用。

④ 学校関係者評価委員会コメント

浅野委員:建物が古くなってきているので設備の老朽化が進んでいることも事実である。それに対し、消防の設備など安全に関しては優先順位を高くし、改修工事等行っているので建物の設備管理はしっかりやっているように感じる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・愛知県や愛知県専修学校各種学校協会等の規定に沿って、適切に行なっているため、特に大きな課題はない。なお、高校側に対して学校教育に理解をいただき、業界や専門学校の状況を知っていただく。また、18歳人口の減少に伴い、募集対象の幅を広げ学生募集を行っていく必要がある。
- ・入学選考において、特待生の選考を面接重視で実施していますが、入学後に面接時から意識が下がっている生徒（オープンキャンパススタッフや行事においても消極的で特待生としてふさわしいのか？）も中にはいるため、面接試験において、高校生の回答に対する評価を面接官でより統一したものを準備する。

⑤ 今後の改善方策

- ・オンラインオープンキャンパスの強化。
- ・特待生入試に向けた、評価基準の統一認識。

⑥ 特記事項

- ・入学前のイメージと入学後のギャップを持たない情報伝達の徹底。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員：オンラインの強みは遠方からも気軽に参加出来るところである。オンラインのほうでは学校で学んだことややっていることを話してほしいと言われているが、他にも体験できるものを検討し、活用方法を広げていけるほうがよりイメージが付きやすいと思う。

玉田委員：今年度に入ってからまだ学生となかなか会えていないのでコミュニケーションが取れていない。その中でクラス間でも4月頭くらいの感覚で学生と関わる必要があると感じている。オンデマンド授業は学生からするとなかったかのように授業が進んでいるように感じる。コミュニケーションと同様、授業も開始したばかりのような感覚がある。夢をもって入学してきた学生が毎年なら熱量をもっているように感じるが、今年度は自粛期間があり、疲れているのか熱量があまり感じない。卒業後の進路に対してイメージがよりわきにくくなっているため、不安を感じながら就職活動をしていると聞いた。

小久保副校長：現状を想定していなかったのでメディア授業に対して入学前に伝達をしていない。本校ではメディアを通じた教材には姉妹校よりも先行して取り組んでいたが、今年度のようなボリュームは想定していない。レポートの提出の内容において、学生が授業という感覚をまだ持っていないように感じている。しかしこの状態は今後も続き、そして対面である必要性が高いものや現場に出ていく機会をより創出できるようであればオンデマンドの授業を活用しながら授業を展開していくことが考えられる。今後の入学希望者や保護者へはメディア授業があることを伝えている。次年度の新入生からは高校でも経験しているのもあるので認識や感覚が違ってくると思っている。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について継続して徹底していく必要がある。

② 今後の改善方策

・現時点で問題になるようなことは起きていないが、継続して啓蒙活動を行う必要がある。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

浅野委員：対応取り扱いは慎重に勤めて頂きたい。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・現在実施している活動からも、特に大きな課題はない。

② 今後の改善方策

・特になし。生徒の教育効果にもつながり地域の方々にとっても有益な講座や教育訓練を企画していく。

③ 特記事項

・特になし。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員：イベント企画しようとしている人は多いので、学校へ依頼するための募集要項等を記入できる資料があればボランティア活動場所を広げられると思う。

浅野委員：学校付近に出来るイオンと共同で出来るのは楽しみである。現在、具体的な検討事項はあるのか。

小久保副校長：名古屋地区にある三幸学園の学校と関連する業種がある。例えば飲食・フィットネスクラブ・クリニック・託児所も入るので三幸学園の学生の出先機関、人材派遣場所として期待もしている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果は概ね問題ないが、細部までしっかりと点検・確認し、地域や業界から必要とされる学校になるために課題を把握し、学校運営をしていく必要がある。

2020 年度も引き続き、下記を取り組んでいく。

- ・目標や計画を具体的に設定されているように感じるため、継続的により良い学校創りに努める。
 - ※普段の学校生活の過ごし方の見直し、自己実現のため、学ぶ環境の風土・雰囲気作り
- ・教育理念にある教育に一層力を入れ努める。
 - ※即戦力として活躍できるよう「業界との連携強化」
 - ※学習習熟度強化の為に「教科連携の工夫」と「魅力ある授業の工夫」
- ・就職支援(在学・卒業後)、検定・資格合格率向上、退学率低減により努める。